

令和7年8月18日（月）

読売新聞 朝刊・地域面奈良

東京五輪「想いの力」支えに

競泳代表・砂間さん 90人聴き入る

薬師寺月例

まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が17日、奈良市の薬師寺で開かれた。大和郡山市出身で、2021年にあった東京五輪の競泳日本代表・砂間敬太さんの講演に約90人が聴き入った。

3歳で水泳を始めた砂間さんは、小・中学校で不登校となったが、天理高の寮生活を通じて克服した経験を説明。中央大時代に16年リオ五輪の代表入りを逃し、自分のことのように悔しがる同期の姿を見て「仲間の泣いた顔を忘れた日はなかった。周囲の『想いの力』があったからこそ、絶対に五輪に出ると決めた」と練習を重ねたことを明か



「五輪で金メダルをとるまで諦めずに水泳を続ける」と語る砂間さん（奈良市で）

した。

現在は28年ロサンゼルス五輪出場を目指しており、「水泳をやめることも考えたが、五輪で金メダルをとるまで諦めずにやり続ける。日本に水泳ブームを起こしたい」と力を込めた。

次回の月例塾は9月21日、国内外にお好み焼き店を展開する「千房」代表取締役会長の中井政嗣さんが講演する。